

Outcomes of Uveitic Macular Edema in the First-line Antimetabolites as Steroid-Sparing Treatment Uveitis Trial.

Tsui E, Rathinam SR, Gonzales JA, Thundikandy R, Kanakath A, Balamurugan S, Vedhanayaki R, Lim LL, Suhler EB, Al-Dhibi HA, Doan T, Keenan J, Ebert CD, Kim E, Madow B, Porco TC, Acharya NR; FAST Research Group.
Ophthalmology. 2022 Jun;129(6):661-667. doi: 10.1016/j.ophtha.2022.02.002.
Epub 2022 Feb 8. PMID: 35143800.

眼内の炎症によって血管透過性が亢進することで黄斑に浮腫が生じます。黄斑浮腫の治療として、局所では副腎皮質ステロイドの点眼やテノン嚢下注射、全身には副腎皮質ステロイド、抗 TNF 製剤などが用いられます。この研究では、副腎皮質ステロイドの内服の漸減 (steroid-sparing) のために、代謝拮抗薬 (メソトレキサート [MTX] またはミコフェノール酸モフェチル [MMF]) の黄斑浮腫に対する効果を検討しました。

ぶどう膜炎による黄斑浮腫患者を無作為に①MTX 25mg/週、②MMF 1.5mg/日の2群に分け、12か月後の視力と網膜厚を比較しました。結果は、12か月時点の平均視力と平均網膜厚は2群ともに改善がみられましたが、2群間に有意差はみられませんでした。一方で、およそ半数の症例で黄斑浮腫が残存しており、適切な追加治療が必要であると結論付けられています。

黄斑浮腫に対する免疫抑制薬や抗 TNF 製剤の有効性に関する他の報告をみますと、有効性は見られるものの30-50%程度で黄斑浮腫が残存しています。

黄斑浮腫の治療に苦労することは臨床で度々経験しますが、これらの報告をみますとそれは決して珍しいことではなく、黄斑浮腫の治療は改めて難しいものだと感じさせられます。今回は2種類の代謝拮抗薬を比較していますが、他の薬剤との比較はまだ報告されていないため、今後の研究が望まれています。

(担当者：横浜市立大学 竹内正樹)